

授業科目の区分等：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	必修
担当教員			
萩原 豪			

授業のねらい（概要）	「持続可能な社会の構築を視野に入れた観光まちづくり」について、環境教育・ESD（持続可能な開発のための教育）の手法を用いて、群馬県内の地域資源を活用した観光まちづくりおよび「持続可能な社会の構築と観光まちづくり」に関わる研究・実践活動を行う。専門演習Ⅰを通じて得た知見を基に、各自が選択したテーマについて卒業論文をまとめていく。
授業計画	<p>3年次の経営学課題研究・経営学研究法に引き続き、学内外において〈桑茶プロジェクト〉や〈じゃがいも酢〉などのプロジェクトを実施していく。</p> <p>卒業論文研究を遂行するため、以下のことを進めていく。なお、前期に2回、後期に2回、卒業論文の進捗状況を確認するための中間報告会を行う。</p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 卒業論文に対するテーマ設定および精査 (2) 卒業論文に関する研究計画書の作成 (3) 卒業論文のテーマに関する先行研究の調査 (4) 卒業論文の執筆開始 <p>予習（時間）：卒業論文作成にあたっての文献調査やフィールドワークを主体とした情報収集・レジュメ作成・レポート作成など。（120） 復習（時間）：ゼミ活動の振り返り、卒業論文執筆に関わる振り返りなど。（120）</p> <p>*第1回から第4回を遠隔授業とする。</p> <p>*第5回、第9回、第12回の授業を課題研究として学修する。課題研究の内容については、教員が指示をした卒業研究に関わる内容について、指示された情報源や方法でレポートを作成して、教員の校正指示に従い完成させた上で提出をする。各回、330分の学修を想定している。</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<ol style="list-style-type: none"> 1. DP（商学部）の3項目を意識した科目となっている。 2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢 <ol style="list-style-type: none"> 1. DP（経営学科）の1項目を意識した科目となっている。 2. 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力 <p>【身に付くスキル】 生涯学習力・論理的思考力</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の手と足と目と耳で情報を探し出すことができる。 (2) 群馬県内の地域を観光とまちづくりという視点から活性化するための提案することができる。 (3) 「持続可能な社会」と観光まちづくりの関係性について理解できる。 (4) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成することができる。 (5) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> (1) 就職活動等を理由に欠席する場合も含め、欠席する際は必ず事前に連絡すること。 (2) ゼミ活動としてフィールドワークや研修合宿を実施したり、地域での活動に参加したりするので、時間を調整できるかぎり参加すること。（いずれも費用は実費自己負担）。 (3) フィールドワークには大学内および大学近郊での農業体験が含まれる。
成績評価の方法・基準	評価基準は学修意欲：40%、卒業論文の中間発表（60%）で総合的に判断する。 【注意】卒業論文の中間報告および卒業論文の提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	
参考書・教材	【教材】参考文献については授業中に適宜紹介していく。これ以外の参考文献として、書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。
備考	<p>演習科目</p> <p>*第1回から第4回を遠隔授業とする。</p> <p>*第5回、第9回、第12回の授業を課題研究として学修する。課題研究の内容については、教員が指示をした卒業研究に関わる内容について、指示された情報源や方法でレポートを作成して、教員の校正指示に従い完成させた上で提出をする。各回、330分の学修を想定している。</p>
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で告知する。